

## クラブ会長・幹事の皆様、そしてクラブ会員の皆様へ



国際ロータリー第2780地区  
2020～21年度ガバナー

**久保田 英男**

(鎌倉RC)

### 最初で最後の公式訪問とコロナ禍の国際奉仕

いまさら、公式訪問の話題です。今年の公式訪問では、スライドなどは一切使用せず、ホルガー・クナークRI会長の意向もあり、RIや地区の現状報告や方針説明などより、クラブに寄り添う気持ちで、クラブへの期待や未来についてお話させて頂き、皆様のご意見を伺ったり、質問にお答えしたり、可能な限り対話形式で行うよう心掛けました。IT・デジタルな時代だからこそ、アナログな手法が新鮮だったように思いますし、事前にガバナー補佐が説明頂いたこともあり、訪問するクラブもその趣旨に沿った思い思いの趣向でお迎え頂き、楽しく、また貴重な体験をすることができました。改めて66クラブの皆様、本当にありがとうございました。時期的に3クラブほどオンラインでの訪問になりましたが、あとはこのコロナ禍でありながら「奇跡的」に対面で訪問することが叶いました。自称『晴れ男』。公式訪問では東の間の『晴れ』を呼び込めたのかもしれない。その公式訪問も歴代ガバナーがそうであったように最終はホームクラブでクライマックスを迎え、長かった66クラブの旅を振り返り、安堵と同時に、これで終わりかと思うと少し感傷的な気分にと感じていたら、新クラブが設立されるとの知らせを受け「まだ公式訪問できるぞ」それ幸いと喜んだものの、コロナが再拡大し、その対応に追われ、まるで冒険譚のような毎日に時計の針は無情にもただただ進み4月に…。

なかなか決まらなかったイノベーションゲートウェイ湘南ロータリークラブ(IGS-RC)へ4月17日ついに公式訪問を行いました。このコロナ禍に

誕生した新クラブにお邪魔するのは2回目だったのですが、その2度ともZOOM。これも時代と時期の象徴のようなことであり、そして、IGS-RCにとって最初のガバナー公式訪問は、私にとって最後の公式訪問。しかも、67回の公式訪問で唯一パワーポイントを利用したプレゼンテーションの卓話を行いました。卓話の内容はともかく、その前後に行われた懇談会では、それこそ一度もロータリアンとして直にお会いしたことない方々とモニター越しに会話を交わし、終わってみれば「楽しかった」が率直な感想。IGS-RCの皆さんは全員が初めてのロータリーなのに、「ロータリー」という共通点だけで急速に仲良くなれた感触を得られたのには私にとって大きな「驚き」であり「発見」でした。そして、私の拙いアドバイス「どんどん参加しましょう」の言葉に従って(騙されて?)、4月24日に行われたロータリー財団奨学生帰国報告会に参加してくれた幹事の久野さんが、ワクワクした表情で積極的に発言してくれる姿を見ながら、改めてロータリーの持つポテンシャルを肌で感じ、そして若いロータリアンの未来をイメージでき、残り任期2か月、まだまだやる事がたくさん残っていると感じた次第です。「まだ何もわからないので教えて下さい」と謙虚におっしゃる新クラブIGS-RCからインスピレーションを受けることができました。ありがとうございます。

またその前日ですが、厚木県央ロータリークラブから「是非、例会に来てください」というお誘いがあり訪問して参りました。

その例会のプログラムとは、地区補助金を活用したラオスの病院に付属する農園を支援する活動

「国際奉仕プロジェクト」の報告でした。その概要を簡単に説明します。

その病院では、患者や職員の食料を自給自足しようとするものの、広い農園を持ちながら原始的な農具しか持ち合わせず、農産物を十分に収穫できない状態であるのを知ったメンバーが、耕運機などの寄贈と農業技術を提供する計画でした。が、コロナ禍に見舞われ、訪問できなくなったので、計画を一部変更し、寄贈機材を変更したり、現地で行う予定の技術支援を遠隔指導に切り替えて実施されたのです。耕運機などの使い方などを会員が説明したビデオを収録し現地に送り、その後インターネットを利用し現地と直接質問やアドバイスをを行う、という内容です。

往來が制限される中にありながら、物を贈るだけの一方向的にならず、きめ細かなアドバイスとコミュニケーションを取りながら、全ての会員が参加し、ロータリアン自らが汗をかき、勇気と知恵を出し合って成し遂げた素晴らしい活動内容に感動しました。このコロナ禍における国際奉仕のロールモデルと言えるのではないのでしょうか。「ロータリーの友」2020年12月号にも紹介されていますので、そちらも併せてご覧いただければ何よりです。とにかく「できない」「行かない」とあきらめるのではなく、一日も早く農園での作業につなげたいという熱い思いを実現してしまう厚木県中央RCのすごいところです。これからも我がことのようにこの話させていただきます。そして、また新しい情報を楽しみにしています。

今月の月信で9グループの全てのクラブの紹介が完結します。混迷の一年間、長いようで瞬く間の一年になりそうです。クラブや会長、会員の皆様にとって不本意な年だったかもしれませんが、でもまだ年度は終わっていません。私は厚木県中央RCのようにあきらめず「どうしたらできるのか」考え実行し、IGS-RCのように新しい世界に踏み込む少年のような気持ちを大切に「まだ2か月もある」この時間を何倍にも使いたいと思います。

「あと2か月しかない」と思うか「まだ2か月ある」、あなたはどちらでしょうか。

## 5月『青少年奉仕月間』

またまた私事で恐縮です。今年の誕生日で還暦を迎えました。私が子供のころ、60歳の方は大人の中の大人という印象、貫禄も十分に近づき難い存在に見えていた記憶があります。「何十年も経っ

たら自分もこうなれる」と信じていたのですが…、残念、まだ程遠いようです。

思えば、少年時代から憧れる大人像をもっていただように思います。前述の続きになるかもしれませんが、公式訪問でも「かっこいい大人になったかった」の発言を耳にされた方も多いかとおもいます。ファッションであったり、ちょっとした言葉使いの癖や仕草であったり。良いにつけ、悪いにせよ、大人の背中をみながら、それを真似て育ててきたのかもしれませんが。

「憧れる大人」を見よう見まねで成長した自分。不完全な人間かもしれませんが、少なくとも世の中にご迷惑をかけることもなく、それなりに地域にも、ロータリー活動を通じ、国際社会にも何らかの恩返しができていくわけですし、悪くはないのかな、と。そんな自分になれたのは、「憧れの大人」を持てたおかげ、ということでしょう。

私は幸せなことに憧れの大人に恵まれ、その後ろ姿は、少年青年の私にとって最高の見本であり教材だったということです。それこそが、リアルな青少年奉仕だったと思います。

ロータリーには様々な青少年奉仕プログラムがあります。青少年交換、インターアクト、ローターアクト、ライラなど。米山記念奨学会、ロータリー財団奨学生、平和フェローもそこに含まれるかもしれません。そして、多くのクラブは地域の子供たちに様々なプログラムを提供しています。この全てのプログラムに共通することは、青少年とロータリアンが繋がれる機会であるということ、子供たちが「素敵な大人」と知り合える機会であること、です。そして、ロータリアンも参加すれば感じてもらえると思いますが、子供たちから多くのことを学びます。一方的な関係ではなく、対等な関係を意識すれば、年齢を超え、友情すら生まれることもあります。

私が憧れた「大人」は皆、それを具現化し実践し、小さな未熟な子供も一人の「人」として接してくれたからこそ、いまその様に思えるのではないのでしょうか。

「寛容」「自然体」、そして無言の「情熱」。青少年奉仕はプログラムの中だけではありません。日々私たちの立ち振る舞い、そのものが青少年育成の第一歩なのです。その美しい後姿を多くの青少年に見てもらうためにも、多くの青少年プログラムに参加して頂きたいと願っています。青少年の機会を扉を開くために。